

アフリカケニアツアーに送りだし、感謝

12月9日（火）午後2時、無事に中部国際空港に舞い戻ることができました。4名とも、生涯忘れられない思い出や様々な感慨を胸に、元気に帰ってこられホッとしております。

思えば、どうして私たちが今回のアフリカケニアのツアーに行くことになったのか、みんな半信半疑、できれば中止にならないかなと思う気持ちを出発ロビーまで持ち込んだ旅でした。それが、このような機会を与えられた幸運に感謝いっぱいの気持ちで帰途につくことになるとは。それほど、感動いっぱい、素晴らしい10日間でした。

11月30日（日）後援会主催のバスハイクが終わって間もなく、湯浅さんに送ってもらって中部国際空港へ。さぼ一と2の皆さんや加藤淳・好美ご夫妻、富田園長母子、杉本チャプレンに見送られて、搭乗。北京、アラブ首長国連邦アブダビでケニアナイロビ行きに乗り換え、ナイロビ到着まで21時間半、狭い機内は辛いものです。空港で早川千晶さんに出迎えてもらって、8人乗りのワゴン車にゆられること2時間、ティカという都市で松下照美さんという方が主宰されている「モヨチルドレンセンター」（日本でいう養護施設）を訪問、かつてストリートチルドレンだった子ども達の歓待を受けました。

翌日は、ティカのスラム地域を徒歩で視察。たくさん子どもや青年が、「テルミー」と照美さんのところに駆け寄ってきます。コミュニティケアワーカーの真髄をみる思いでした。そこから、ナイロビに戻り、さあ、マゴソスクールに訪問です。ところが、スラム地区ギベラの警察が常駐するセンターに到着したら、マゴソスクール方面で煙が立ち込めています。すぐ隣から出火、マゴソスクールの建物も一部焼失するという大惨事となり、この日の訪問は断念せざるをえなくなりました。

翌日からは、昔のままの生活をしているマサイ族の村を訪問し、野生動物が保護されている国立公園で4日間を過ごしました。電気もない、マサイ族の村では、ライオンがくるかもしれないという自然の下、スコップ片手の排便です。それでも、マサイ族の伝統的な生活様式、そこで生き続け、伝承されている生き方、価値観は、大いに考えさせられるものでした。身近にみる野生動物や鳥も見事です。

舗装されていないガタガタ道を走ること5時間、ナイロビに帰って来たのは、6日（日）夕方です。マサイマーケットでお土産を買う時には、いかに値切るか、体験学習です。

翌7日（日）マゴソスクールでの当初予定のクリスマスパーティーは中止となりましたが、私たちの他、支援者らを迎えるプログラムを何とか実施できることとなり、警官数名の護衛のもと、ギベラ地区



に立ち入り、念願のマゴソスクールに向かいました。多分、名南中学校区より少し広い地域に80万人ほどが住むスラム地域です。穴の空いたトタン屋根一枚の長屋がずらっと並び、ひとつの家は、6畳間もない広さに、家族10名が寝て食べて、生活するスペースです。何ともいえない異臭の町中を30分も歩くと砂漠のオアシスのようなマゴソスクールがありました。火事で焼け出されて住む家を失った方々の避難所にもなっています。そこに住む子ども50数名、OB、OGも駆けつけています。近くから通う子どもたちにも来るようにと声をかけていたようですが、火事の恐怖が頭から離れず、

その日來ている子どもは僅かということでしたが、社会館バザーに近い賑わいです。歓待を受け、施設を見させてもらい、子ども達の歓迎の歌と踊りを披露頂き、リリアンさんのお話を聞き、お昼ごはんを御馳走になったのは言うまでもありません。

昨年の招待プログラムの支援金と、社会館のはたらきに触発されて新たに始めようとしている障害児の通所事業の建物も立派でした。ここで、職員たちから預かった支援金、ぴぼっとオープンハウスで寄せられた支援金に、サポート2のお母さん方から寄せられた志を、リリアンさんに、マゴソスクール支援金として、また、火事場見舞いと両方に分けて贈呈しました。

昨年から交流が始まったマゴソスクールの働きをじかに見る事ができたことは、何よりの感動でした。そして、私たちのような公費の補助もないなか、早川さん、リリアンさんと彼女らを取りまく支援者の応援だけで、自立化をめざして活動するマゴソスクールを、名古屋キリスト教社会館は組織を挙げて、継続して応援していこう、それがお互い一緒に生きている友だち、仲間だよとのメッセージとなり、お互いの生きる力となるのだと強く思いました。

今回の視察旅行の報告は、後日 写真付きの報告書として綴る予定ですので、詳しくは、その報告書を心待ち下されば幸いです。

今回は、本当に私たちを送りだして下さい、ありがとうございました。

2014年12月

ケニアで交流&国際協力&サファリツアー一行

加藤 峯子・小早川弘江

伊藤 輝人・谷川 修



マサイの伝統様式で生きる村にて



